



働き方改革

株式会社グロージオ
代表取締役会長 山本 利彦

弊社は公共土木工事を中心とした建設業者です。越すに越されぬ大井川沿い、島田髷、帯祭り(日本三大奇祭の一つ)で名高い島田市に所在しております。昨今の建設業界は少子高齢化による労働人口の減少で、担い手確保、育成への対応、働き方改革が大きな課題となっております。

さて1966年は、わが社の前身、町組が法人組織としてスタートした年であります。また私個人としても、大変思い出深い年でもありました。20歳を迎え、初めての海外旅行を経験したのです。当時貧乏学生だった私が、広い世界を知りたい一心でアルバイトに明け暮れ旅費を捻出。念願のヨーロッパ一周に出かけたのでした。この年は「ダバダバダー」のテーマ曲で一躍有名になった「男と女」が封切られた年でもあります。イギリスでは、今でいう消費税に出会いました。コーヒーの代金が、コーヒー300円、タックス15%、計345円とメニューに記載されておりビックリ。フランスでは買いものの際、日本のように閉店間際にすべり込み時間が過ぎて「どうぞ、ごゆっくり」とは言ってくれません。「閉店時間＝お店の人が帰る時間」つまりは「レジを閉めて」退出する時間なのです。買いものをしていて、ビーと閉店のブザーが鳴ると売り子さんが品物をポイと投げ出し「オー・ルヴワール」「ア・ビアント！」さようなら、またね！とさっさと帰っていつてしまいました。私達が「失礼じゃないか」と息巻いても誰も相手にしてくれません。逆に「日本人は働き過ぎだ」「もっと人生を楽しまなくちゃ」とどこでも誰からも言われてしまいました。オリンピックから2年。欧米に追い付け、追い越せで日本中が沸き立っている時期だっただけに、直ぐにでも肩を並べる時が来るだろうと思いましたが、さてどうでしょうか！

あれから54年。我々が信じてきた高度成長、終身雇用、年功序列は遠い話になってしまいました。今は働き方改革の推進こそが鍵を握っています。新4K、休暇・給料・希望・きれいで若者に魅力を感じてもらうこと。建設産業の担い手を将来にわたり確保していくためには、就労環境を改善すること、具体的には週休2日を促進し、その上で国土強靱化やインフラ整備で地域の基幹産業としてのやりがいや誇りを感じてもらい、夢を持ってもらうこと。同時にICTなど新技術を活用し生産性向上に取り組み、安定した経営を目指し希望を持ってもらうことなど、しっかりと環境に適応していかなければなりません。この改革をチャンスととらえ、地域に貢献できる会社でありたいと願っています。また個人的には、静岡には観光資源が数多くありますので、仲間と各所を巡り人生を大いに楽しみたいと思っています。